

アンケート回答者概要

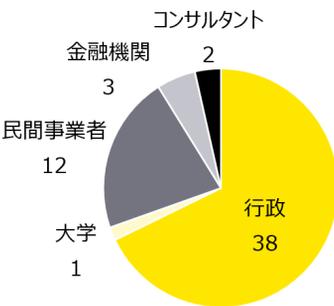
接続数：179アカウント

内訳：行政 97
民間事業者 51
金融機関 16
その他 15

回答数：56件

(回答率：31%)

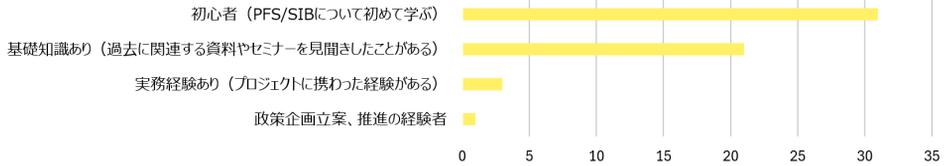
回答者所属種別



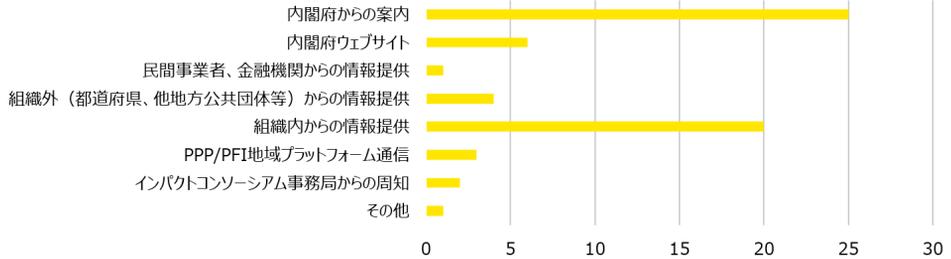
回答者の7割近くが行政機関。

本セミナーを知った経緯については、内閣府からの案内が多く、次いで組織内での情報提供、ウェブサイト上となっている。PFS/SIBについて初めて学ぶ、理解・基礎知識習得のために参加した団体が多くみられる。

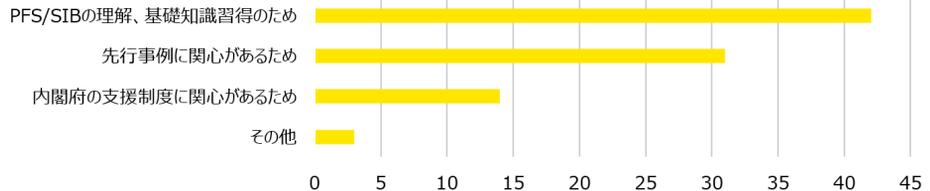
PFS/SIB知識・経験



本セミナーを知った経緯※複数回答可

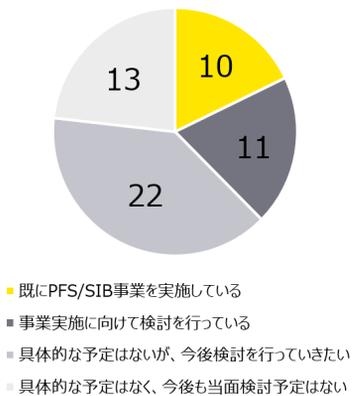


参加動機※複数回答可



アンケート結果

PFS/SIBの検討状況 (n=56)



導入を検討する上で、課題 (ボトルネック) となっている点

【行政】

- ◆ 身近な成功事例を集めていくこと。費用対効果を示していくこと。制度が煩雑で庁内理解を得るのにハードルが高いこと。
- ◆ノウハウや経験の不足
- ◆一部を除きほとんどの職員が制度そのものを知らない。
- ◆PFS設計を行う上で、エビデンスがないこと。医療費を焦点にした場合、広域的かつ持続的なものにするためには市単独では困難であること。
- ◆どの段階で活用するかを検討をするのか。新年度予算の要求の段階で検討するのは遅いのか。活用するまでのプロセス。

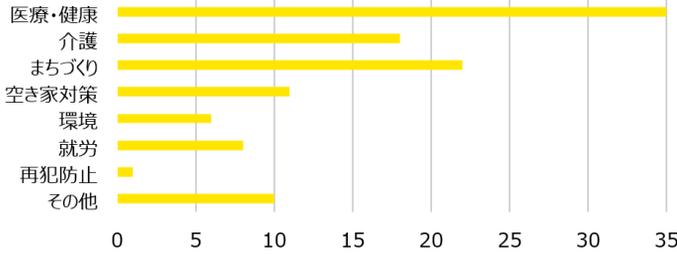
【民間事業者等】

- ◆自治体のマンパワーならびに予算不足
- ◆自治体様への提案方詳細についての知識が不足
- ◆自治体へどのようにアプローチしていいかわからない。
- ◆民間事業者側からいかに小中規模自治体のやる気を促せるか及び民間、住民の制度理解の促進

PFS/SIB導入にあたっては、制度の理解や関心の有無よりも、事業設計や成果の位置づけをどのように整理し、関係者間で合意形成を図っていくかといった実務上の検討過程において、不確実性や難しさが大きな障壁となっている状況がうかがえる。

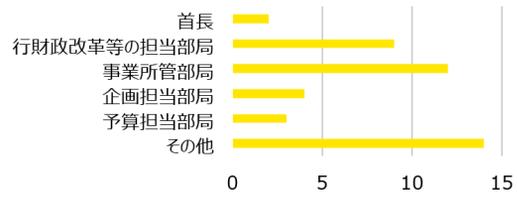
令和7年度 第2回 PFS/SIB実務者セミナー 事後アンケート結果概要②

関心のある事業分野 (n=56) ※複数回答可



PFS/SIBの導入に関心がある方・部局

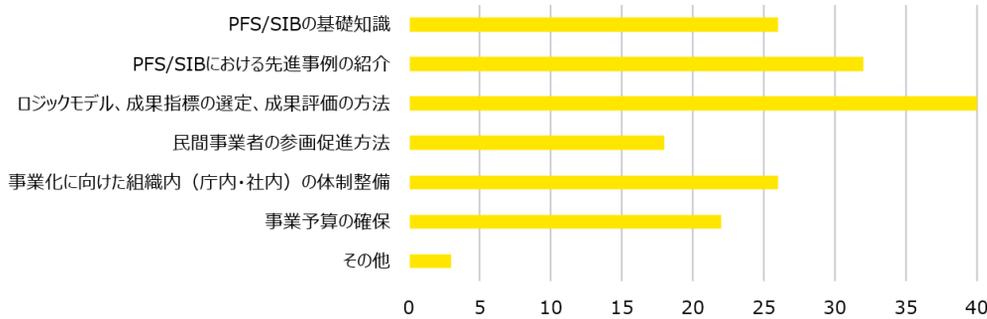
※所属種別で「行政」と回答した方のみ(n=38) ※複数回答可



「その他」回答
 ・契約部門
 ・健康福祉部
 ・副市長
 ・不明
 ・なし

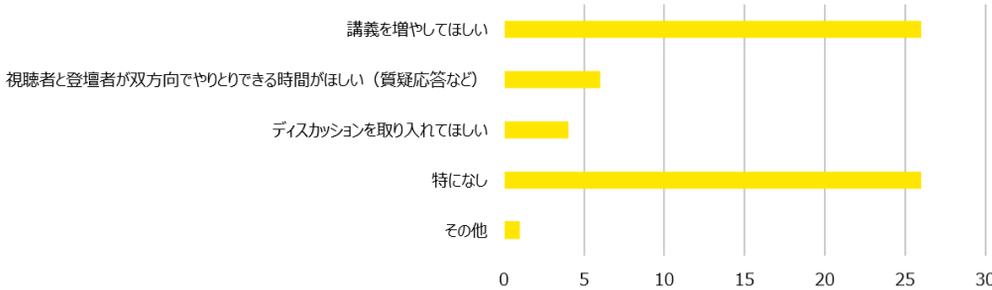
重点3分野に含まれている「医療・健康」、「介護」の他に、「まちづくり」分野も関心のある事業分野として多い傾向にある。部局においては事業所管、行財政改革の部局が中心となっている。

実務者向けセミナーを開催する場合のプログラムについて、今後取り上げてほしいテーマ・内容(n=56)※複数回答可



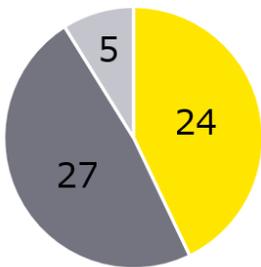
「ロジックモデル」「成果指標」「評価方法」への関心の高さは、参加者が制度の概要を知る段階を超え、個別の事業を検討していく中で、どのような観点で整理し、判断していけばよいかを模索している状況を反映したものと考えられる。

本セミナーの形式における要望(n=56)※複数回答可



講義形式の充実を求める声が多く見られた背景には、PFS/SIBの実装に向けた検討を進める上で、実際の設計や検討がどのような流れで行われてきたのかを整理しながら理解したいという意識がある可能性が考えられる。

本セミナーに参加しての意識の変化とその理由(n=56)



■ 関心、意欲が高まった
 ■ 関心、意欲がやや高まった
 ■ 変化なし

【行政】

- ◆ 新たな官民連携のかたちとして、活用可能性があると感じたため。
- ◆ 導入自治体がPFS設計を行う上で、どのような点がボトルネックとなっていたか等をお聞きすることができたため。
- ◆ パネルディスカッションによって現場の生の声が聞けたことで、事業がより身近に感じられた。
- ◆ 今回の事例は、いずれも異なる分野での活用であったので、検討の参考になった。一方、セミナーの情報だけでは、実際の庁内合意形成、民間事業者の確保など、実務的な面でやや不安がある。
- ◆ 先行事例発表の数を絞って、もう少しじっくり詳しく聞きたかった。

【民間事業者等】

- ◆ 参加前よりイメージが湧くようになった。
- ◆ 知識が深まり、実際の運用組織の概要が理解できた。
- ◆ 今回の参加を機に質問を重ね、自治体に提案していきたいと強く思った。
- ◆ 柔軟な成果運動の設定とそれを動かす仕組みについて学ぶことができました。